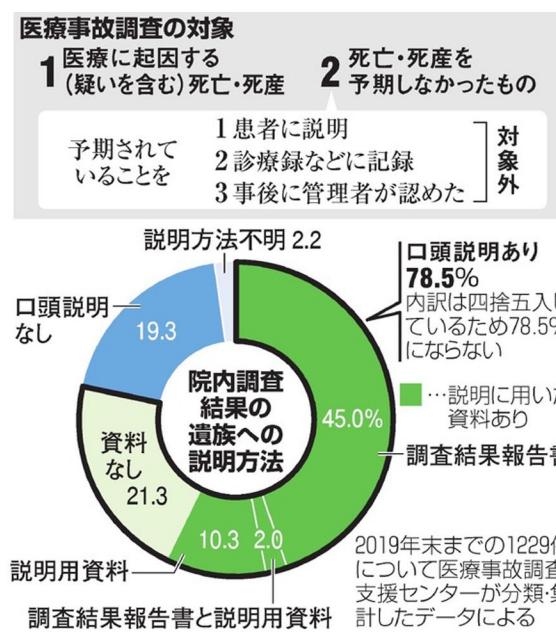


# 医療事故の教訓 生かせているか

## 調査制度開始5年 少ない報告数



静岡県内の男性（当時53）は2015年12月、県内の民間病院で頸椎間板ヘルニアの手術を受けた翌日に死亡した。

男性は血を固める凝固因子（第8因子）が生まれつき足りない血友病Aの患者だった。凝固因子の補充が日常的に必要な重症ではなかつたが、普通の切り傷の止血に健た。

男性は血を固める凝固因子（第8因子）が生まれつき足りない血友病Aの患者だった。手術前に主治医にそのことを伝えた。男性と一緒に手術を受けた妻（57）は主治医は「血液検査をしているので心配ない」と答えた。

手術翌日の午前中、男性は「苦しい」と訴え、間もなく意識を失った。午後4時すぎ、死亡が確認された。妻が凝固因子を補うための製剤を

開始から5年が過ぎた「医療事故調査制度」は、医療事故の再発を防ぐのがねらいだ。だが、制度への理解が深まらないためか、医療機関から事故として報告される件数は想定を大きく下回る。事故の教訓を共有するための情報開示も不十分で、被害者の遺族からは制度の見直しを求める声があがっている。

1999年2月に起きた東京都立広尾病院の薬剤誤投与事故で妻を亡くした永井裕之さん（患者の視点で医療安全を考える連絡協議会代表）に課題を聞いた。

現在の医療事故調査制度は医療界の意見を最大限に採り入れた。遺族が望んだだけで医療機関はその報告書を遺族に渡さなくてよいことになっている。

医療界が真摯に取り組んでくれるだらうと期待し、「小さく産んで大きく育てよう」という気持ちで見守つてきただ。しかし、この制度を大き

く育てていこうという熱意があるとしか言いようがない。医療機関が事故原因を真摯に調べて、その結果を遺族にしめたまらうているとした。しかし、この制度を大き

く育てていこうという熱意があるとしか言いようがない。医療機関が事故原因を真摯に調べて、その結果を遺族にしめたまらうているとした。しかし、この制度を大き

く育てていこうという熱意があるとしか言いようがない。医療機関が事故原因を真摯に調べて、その結果を遺族にしめたまらうているとした。しかし、この制度を大き

## センター報告書 公表し活用を



訴訟は減っていくだろう。

遺族が予期していなかった死亡事例や医療機関からの相

談を受けて医療事故として扱ったほうがよいと判断した死

亡事例については医療事故調査・支援センターが医療機関

に調査を指示できるようにす

べきだ。遺族と事故を起こした医療機関にしか渡されない

同センターの調査報告書も公

表し、再発防止に生かしてほ

しい。より良い方向に見直すための検討会の設置を厚生労

働省に求めたい。

## 遺族への説明 「資料なし」も

センターに報告された事故は年平均400件に満たず、制度実施前の厚生労働省の試算（年間1300～2千件）に比べ、大幅に少ない。センターは、医療事故の判断について医療機関から相談を受けた時に複数の専門家で合議する。今年9月末までに合議終えた333件のうち185件について「医療事故として報告を推薦」したが、10月末までに報告されたのは130件で、55件（29.7%）は報告されていない。

護士は「『予期された死亡』の範囲を厚労省の見解を超えて拡大解釈したり、医療訴訟の前哨戦とらえて『医療に起因しない死亡』だと主張したりして調査を行わない医療機関がある」と指摘する。

遺族への説明や再発防止のための情報開示も不十分だ。センターが昨年12月までに院内調査の結果がまとまった1272件について遺族への説明方法を調べたデータによると、「遺族が説明を希望しない」と結論づけた。

18年に示談が成立。妻は治療の依頼をすることが望まなかった、と結論づけた。

18年に示談が成立。妻は治療の依頼をすることが望まなかった、と結論づけた。

妻は「同じような事故が繰り返されないように再発防止に役立てるほしい」と話す。

センターに報告された事故は年平均400件に満たず、制度実施前の厚生労働省の試算（年間1300～2千件）に比べ、大幅に少ない。センターは、医療事故の判断について医療機関から相談を受けた時に複数の専門家で合議する。今年9月末までに合議終えた333件のうち185件について「医療事故として報告を推薦」したが、10月末までに報告されたのは130件で、55件（29.7%）は報告されていない。

厚労省の見解を超えて拡大解釈したり、医療訴訟の前哨戦とらえて『医療に起因しない死亡』だと主張したりして調査を行わない医療機関がある」と指摘する。

センターは院内事故調査結果の報告に基づき、類似の事故が繰り返されている事例を分析し、これまでに再発防止策を12回提言しているが、個別のセンター報告書は公表されていない。（出河雅彦）

## 医療

kenko@asahi.com

水曜掲載